

2021-3-6

論説

40年超原発

杉本知事は真意を語れ

杉本達治知事が、運転開始から四十年を
超える関西電力の三原発の再稼働の議論
と、使用済み核燃料の中間貯蔵施設の県外
立地問題を切り離す方針を示したことで県
議会、県民には困惑が広がっている。

杉本知事はこれまで、関電が使
用済み核燃料を一時保管する中間
貯蔵施設の県外計画地点を示すこ
とが「再稼働の」議論を行う前
提で、全ての条件に先んじる「な
んごと」発言してきた。これに対し、
電気事業連合会は昨年末、青森県
むつ市にある中間貯蔵施設を、関
電などの電力各社で共同利用する
案を示したが、むつ市が猛反発。
関電は県に約束した二〇二〇年内
の計画地点の提示ができない事態
に追い込まれていた。

関電は二月十二日に中間貯蔵施
設の県外計画地点を「三年末を
最終期限として確定する」と杉本
知事に報告。関電の森本孝社長が
「二〇二三年末までに確定できな
かったら廃発を止める」と発言し
たことを杉本知事は「覚悟」と評
価し、県議会に再稼働の議論の着
手を求めた。

関電は回答時期を先送りした上
に、このようにして、むつ市を県
外計画地点として実現するのにか
ついでゼロ回答だった。杉本知事
は「一定の回答があった」と評価
したが、県議会には戸惑いが広が
った。原発の再稼働の議論は必要
との立場である森大会派「県会自
民党」ですら「層突感がある。実
質的な進展がなら」(山岸猛夫会
長)と、杉本知事の突然の方針転
換に疑問を呈した。杉本知事のこ
れまでの言動から、県外計画地点
が明確にならないければ、再稼働の
議論は行われないうの見方が県議
会の大勢であり、杉本知事と県議
会の乖離は今定例会代表質問で浮
き彫りとなった。

そのためか、杉本知事は二月二
十六日の県議会一般質問で、運転
開始四十年超の原発再稼働問題
と、使用済み核燃料の中間貯蔵施
設の県外立地問題を「切り離して
検討したい」と答弁し、前回に続
き突如、軌道修正した。

再三にわたる杉本知事の「安心
に」(山岸会長も)の言葉を「自分
でひびきかけておいて、知らない問
に切り離した」と言及しながら
も、予算決算特別委員会での杉本
知事の発言を見守る趣向を示し
た。杉本知事の発言は中間貯蔵施
設の県外立地問題を棚上げにし、
先に再稼働問題の議論を県議会に
求めたというのではなか。そうで
あるならこれまでの方針の大転換
であり、杉本知事は県民、県議会
に納得のいく説明が求められる。